

経営比較分析表

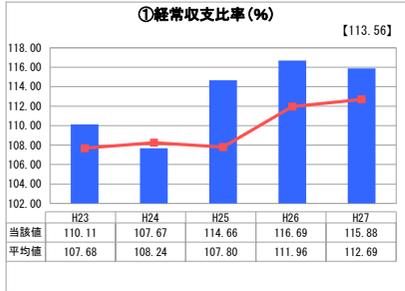
埼玉県 羽生市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分
法適用	水道事業	末端給水事業	A4
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)
-	54.85	99.98	2,370

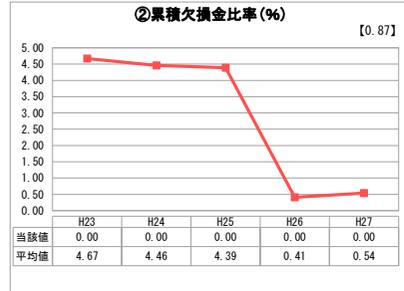
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
55,677	58.64	949.47
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
55,577	58.64	947.77

グラフ凡例
■ 当該団体値 (当該値)
— 類似団体平均値 (平均値)
【】 平成27年度全国平均

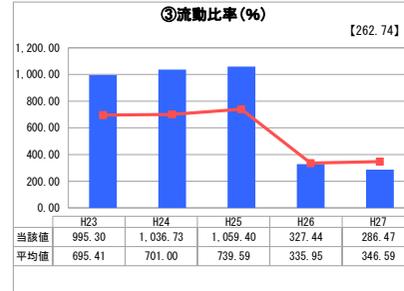
1. 経営の健全性・効率性



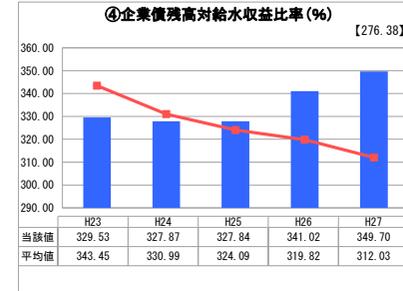
「経常損益」



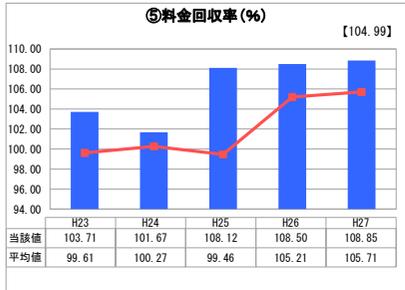
「累積欠損」



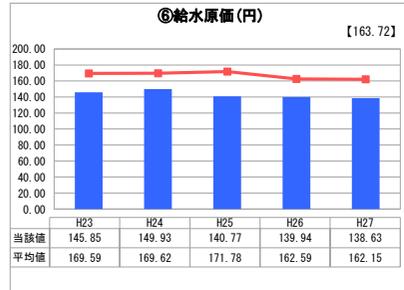
「支払能力」



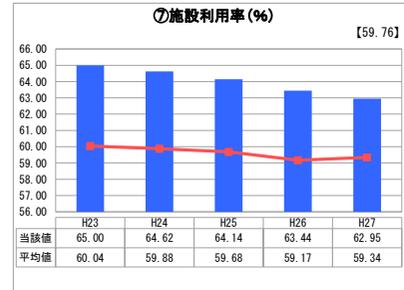
「債務残高」



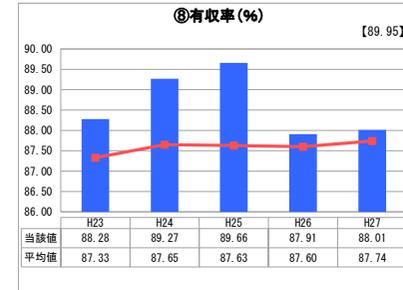
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

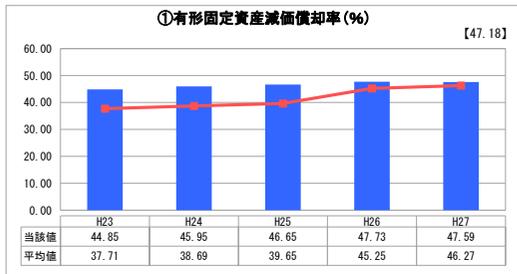


「施設の効率性」

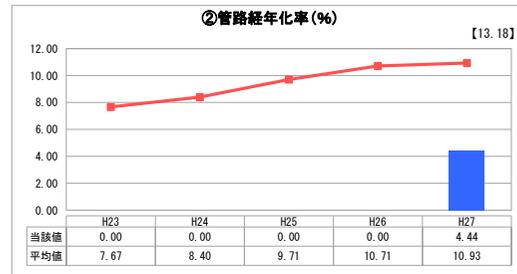


「供給した配水量の効率性」

2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率
⇒指標が100%を上回っており、健全な経営が行われています。
- ②累積欠損比率
⇒累積欠損はありません。
- ③流動比率
⇒指標は100%を上回っており、支払いに要する現金の確保が図られています。平成26年度より会計基準が見直され、借入資本金を負債に計上することになったために指標が大幅に下がりました。
- ④企業債残高対給水収益比率
⇒ほぼ一定の比率で推移していますが、将来的負担の軽減を図るため、今後の企業債借入額の縮小に努める必要があります。
- ⑤料金回収率
⇒指標が100%を上回っており、給水に係る費用が給水収益で賄われています。
- ⑥給水原価
⇒ここ数年は、費用の削減により給水原価が低減傾向にあります。
- ⑦施設利用率
⇒配水量が年々減少傾向にあり、施設利用率も減少しています。
- ⑧有収率
⇒老朽管更新事業の推進により、前年度に比べて多少、向上しました。過去5年間においては、概ね88%程度の値で推移しています。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率
⇒保有資産の耐用年数が近付いており、施設の老朽化が進んでいるため、計画的な施設の更新が必要となります。
- ②管路経年化率
⇒類似比較団体より低い水準にあり、法定耐用年数を経過した管路は少ない状況にあるものの、管路の更新を継続して行い、施設の維持管理に努めていく必要があります。
- ③管路更新率
⇒計画的に老朽管の更新事業を進めてきていますが、近年は老朽管更新対象地区が市街地になったために費用がかさみ、更新率が低下しています。

全体総括

経営状況的には、「経常収支比率」、「流動比率」及び「料金回収率」ともに100%を超えており、黒字経営による健全な経営を行っています。但し、施設については、老朽化が進んでいるため、経年化率等による優先順位に基づき、また、将来的な経営状況を鑑み、計画的に施設の更新を進めていく必要があります。

※ 平成23年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。